

令和元年度第11回 感染症発生動向調査部会
議事要旨

1 日 時 令和2年2月19日（水） 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室（岐阜市柳戸1-1）

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志（岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター 副センター長）
大西 秀典（岐阜大学医学部附属病院 小児科 准教授）
澤田 明（岐阜大学医学部附属病院 眼科 講師）
事 務 局 : 岡 隆史（保健環境研究所 主任専門研究員）
酢谷 奈津（保健環境研究所 専門研究員）

4 議 題 （進行：大西委員）

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) 情報提供すべき事項について
- (4) 情報提供（月番委員専門分野から）
- (5) その他

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○侵襲性インフルエンザ菌感染症について

（大西委員）

- ・1月の報告数増加が一時的な傾向かどうか。発症年齢、ワクチン接種歴などの状況はどうか。
（保健環境研究所）

・侵襲性インフルエンザ菌感染症の全国、岐阜県の届出状況について説明。

- ・全数報告が始まった2013年以降、全国の患者報告数は年々増加傾向にある。これは、報告対象であることが認知されるようになったためと考えられている。
- ・2019年、全国では65歳以上が約7割と多く、5歳未満は11%であった。ワクチン接種歴に関するデータは公開されていない。
- ・岐阜県では、2013年から2020年6週までに合計45例報告があり、7割が65歳以上。0歳の報告はなく、15歳未満の報告は2例。

- ・今年1週から6週までに7例報告があり、すべて成人例であるが、昨年1年間の報告数（7人）に達している。
- ・今年1月は全国的にも患者の報告が多く、昨年と同じ1月に増加した。夏は報告数が減る傾向にある。
- ・なお、本疾患の届出対象は、髄液や血液など無菌部位からインフルエンザ菌が検出された症例であり、髄膜炎の他にも肺炎や菌血症の症例も含まれる。報告患者の大部分を占める高齢者の多くは肺炎である。

（委員からのコメント）

- ・無莢膜型による髄膜炎が増加しているという情報はないか？
→（保健環境研究所）感染症発生動向調査に関しては、莢膜型に関する公開データが確認できていないため、莢膜型の内訳については把握できていない。
- ・医療機関における血液培養実施率の増加などの背景が、報告数の増加に影響している可能性も考えられる。

【情報提供すべき事項について】

○新型コロナウイルス感染症について

- ・2月1日に指定感染症に指定され、二類感染症相当の対応となった。

（委員からのコメント）

- ・医療機関に対しては、感染が疑われる患者の相談・受診の流れについて周知が必要である。
- ・県民に対しては、過剰に恐れることなく、一方で油断することのないように適切な啓発が必要。

○Hib ワクチンの供給遅延に伴う侵襲性インフルエンザ菌感染症の動向について

- ・Hib ワクチンの製造元からの新たな供給が遅れており、供給再開の目途もたっていない。
- ・今後、ワクチン不足となった場合に侵襲性インフルエンザ菌感染症の増加が懸念される。（大西委員）

【情報提供（月番専門分野から）】

- ・第3回日本免疫不全・自己炎症学会総会・学術集会が東京で開催された。先天的に感染症に罹患しやすい疾患を対象として設立された新しい学会。

【保健医療課から情報提供】

（保健医療課から資料提供。保健環境研究所から説明。）

- ・厚生労働省からの感染症関連通知等情報提供。